

ボランティア部門 受賞者 山元 香代子



■活動報告の講演

整備代などを自己資金のみで対応せざるを得なかった。この事情を知った有志が、活動を安定的に継続するため、2012年「NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会(ORMZ)」を設立。山元氏は同会副理事長に就任、現在は多くの方々からの支援を受けながら、3ヶ月毎にザンビアと日本を行き来し、ザンビアでの活動を継続している。

ザンビアでは診療以外に住民に対する保健衛生啓発活動やコミュニティヘルスワーカーの養成を行い、これまでに4地区で22名のワーカーを輩出した。彼らは巡回診療のサポート以外に、マラリア予防・検査・薬剤投与、下痢・小児の肺炎治療などを行っている。養成後もフォローアップ研修を行い、適切な活動が続けられるよう支援している。

また、2014年にはルアンノ地区初の井戸設置にも取り組み、地域住民の安全な飲料水確保を実現。その後、他地区も含めて合計17基の井戸を掘削した。

2016年12月までに診察した患者数は21,000名を超えた。地域スタッフの尽力もあり、マラリアによる死亡者は激減、その貢献度は計り知れない。山元氏は「ザンビアの医療を変えることはできないが、一人でも多くの命を救い、人々が自分たちの健康は自分たちで守るという意識が少しずつ広がっていけば、とてもうれしい」と言う。医療資源の乏しい地域にあって、そのひたむきな活動が、より広く理解され発展していくことを願うばかりである。



山元 香代子
Kayoko Yamamoto

自治医科大学卒業後、宮崎でのへき地勤務などの9年間を含め、日本で15年間地域医療に従事。発展途上国での医療保健活動に関心を持ち、WHO西太平洋地域事務局医務官、JICA専門家などとして活動を行う。ザンビア滞在中にへき地医療活動の必要性を強く感じ、2010年ザンビア共和国医師免許取得。2011年10月から巡回診療を開始し、1年のうち半年をザンビアでの医療活動、半年を鹿児島県・昭南病院で内科医として働きながら現在に至る。医学博士。2015年、第43回医療功労賞受賞。

認定NPO法人 ザンビアの辺地医療を支援する会(ORMZ) 副理事長
Deputy Director, Certified NPO Organization to Support Rural Medicine in Zambia (ORMZ)

推薦者

細田 瑛一
公益財団法人日本心臓血管研究振興会 理事長

懸命に生きる人たちが幸せになれるように

ザンビアで地域の協力者たちと一人でも多くの命を救う



■ルアンノでの診療

山元香代子氏の医師としての原点は研修後に従事したへき地医療、日本三大秘境の一つである宮崎県椎葉村での経験にある。当時の住民は経済的に苦しい状況の中で懸命に生活していた。日々の診療を通してこの地に住む人々のあたたかさや優しさに触れ、山元氏は、懸命に生きている人たちが少しでも幸せになれるよう、医師として役に立ちたいと強く思ったのだった。

地域医療を経験したのちWHOの医務官となり、アジア途上国における小児保健政策提案に尽力。正確に伝わっていない現地の実情をもっと知るため、JICA専門家として地域保健医療の向上にも力を注いだ。活動中に現地での目の当たりにしたのは、必要な所に援助が行き渡っていない現状や、患者やその家族に対して温かみがない医療だった。もつと患者さんを思いやれる温かみのある診療所をつくりたい、そんなときにザンビアでの医療活動に誘われ、へき地での巡回診療を始めることを決意するに至った。

2010年にザンビアにて医師免許を取得。翌年には現地で保健省の承認を得て、資材や車を調達、スタッフを集め巡回診療は始まった。山元氏はザンビアの都市から離れた電気・ガス・水道のないルアンノ地区で、多いときで200名近くを診察。最も多い疾患はマラリアで、衛生環境の悪さから下痢、皮膚疾患や結膜炎などの感染症が絶えないなか、妊婦やエイズ患者など、さまざまな患者さんを無料で診ていた。活動に必要な医療品や器材の購入、厳しい道路状況に伴う車の